

2020年8月31日

青木英二様

目黒区長選挙を考える会共同代表

### 目黒区長の回答（7/7）について

私たちがこのことにかかわったのは、以下の3点からです。

1. 4月12日告示の目黒区長選挙に現職区長、青木英二候補の選挙公報と選挙ポスターに「何としても共産の手から守ります」が記載されていたからです。青木英二氏の主張が「排除の論理」と「不寛容さ」にあり、区民に分断を持ち込むものだからです。
2. CANめぐろ（代表：中村正子）の公開質問状4/27に対して、青木英二氏は、「私の選挙公報に『共産の手から守る』と掲載したのは、「区民」を、「区民個人の権利と自由な活動」を、共産主義のイデオロギーから守る立場をとることをはっきりと表明するものです。」と回答しました。この時に、青木英二氏は、「共産=区民個人の権利と自由な活動を抑制」と誤った考えに基づき説明したことに驚き、個人の権利と自由な活動は、普遍的な価値であり、学術的に共産から導き出されるものでないことを指摘しました。
3. 青木英二氏に引き続き、分断と排除の議論を持ち込まず、「共産=区民個人の権利と自由な活動を抑制」と誤った考えに基づく主張を改めてください。これからは、お互いを認めあう、区民を代表するにふさわしい人権擁護の区政を進めてください。

私たちの公開質問状に青木英二氏は、3の「人権擁護の区政の推進」は努力するとししました。しかし、残念ながら、1の「排除の論理」と「不寛容さ」の主張と、2の「共産=区民個人の権利と自由な活動の抑制」の考えを改める回答ではありませんでした。

私たちは、この回答事態が矛盾したものであり青木英二氏が区政を担う区長として排除の考えと不寛容さと不誠実さに危惧を抱きます。引き続き、目黒区が誰一人も取り残されず、寛容な行政の確立をめざしていきます。

以上